



平和への祈りを込めた灯ろう流し



各小学校の代表として千羽鶴を捧げました



式典にはカッパ着用で臨みました



被爆体験講話

心に灯した平和への思い 伝え続けよう未来に！

～広島平和記念式典に参列

広島に原爆が投下されて69年の月日が経過し、戦争のない平和な毎日は、私たちにとって当たり前のこととなりました。その当たり前が未来へと続いて行くために、過去から学び、家族や仲間と語り合ひましょう。

村では、昭和63年に「非核平和美浦村宣言」を行い、戦争の悲惨さと平和の尊さを次代へ語り継ぐための活動を続けています。今年もその一環として、小学生親子3組と村代表、教職員代表が広島市の原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式（平和記念式典）に参列しました。当日は43年ぶりの雨天となりましたが、平和記念公園には大勢の人が訪れ、厳粛に祈りをささげました。

ここでは、参加者が広島派遣を通して感じた、平和への思いを語って頂きました。

《敬称略》



塚本光司
(村議会議員)

美浦村広島派遣事業としてこの平和記念式典に参加する機会をいただき、ありがとうございます。

さて、総勢11名にて臨んだ記念式典は43年ぶりの雨天の中、厳粛のうちに挙行されました。この3日間の中で一番印象深かったのは、2日目の被爆体験講話の語り部の方です。昭和6年生まれの梶本さんという女性でしたが、その方が最後におっしゃっていた「今日この場所で聞いたことを、周りの人に話して欲しい、広めて欲しい」という言葉。胸に刻みます。

最後に、みな和気あいあいと遂行できたことに感謝いたしております。



遠井宮子
(女性行政推進協議会会長)

広島に原爆を投下した爆撃

機「エノラ・ゲイ」の乗組員は、7月に最後の方が亡くなり、全員世を去りました。原爆資料館に爆弾「リトルボーイ」の模型が展示されています。この爆弾1個で広島町の壊滅し、14万人がお亡くなりになりました。戦争を終わらせるためという名目で、核爆弾の実験が行われたのは、周知の事実です。



篠崎博明
(大谷小校長)

あの日から69回目の夏。私は初めて広島平和記念式典に参列させていただく機会を得ました。当日は台風の影響もあつてか、43年ぶりの雨の中で行われました。

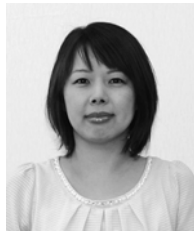
原爆ドームと平和記念資料館の見学や平和記念式典への参列、被爆体験講話、そしてとうろう流し等を通して、原爆犠牲者に祈りを捧げると

もに、核兵器の廃絶と世界平和を願わずにはいられません。今後は、参加者全員で平和の尊さを伝えていきたいと思っています。このような貴重な機会を与えていただけた事に深く感謝いたします。



相馬翔
(大谷小6年)

僕は初めて広島に行きました。一番印象に残った事は被爆体験の話でした。69年前の8月6日、一つの核兵器が落とされ、一瞬で地獄に変わりました。何の罪もない僕たちのような学生はほとんどが死んでしまい、かろうじて助かった人も苦しみながら一人一人と息絶えていったそうです。本当に残酷で無意味な戦争だと思えます。講師の方は「この無残な戦争が二度と起こらないために、この体験の話をみんなにしていってください。」と強く訴えていました。僕が今できる事として、家族や友達に平和が続くために伝えていきます。僕も決して忘れません。



相馬奈津紀
(美駒)

「平和」について改めて考えさせられました。広島は高校生の時に一度訪れていましたが、親の立場で平和記念式典・平和記念資料館・被爆体験講話を見聞きし、多くの子どもが被爆してたくさん尊い命が失われたことに胸が締めつけられる思いでした。戦争は本当に残酷でありにもむごく悲惨です。そして今もまだ核兵器を保持している国がある現実。核兵器の廃絶、戦争のない平和な世界を祈っています。世界中で今の平和が一日でも続くために次の世代へと継承していきます。

親子でこのような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございます。



▲各小学校で鶴を折りました



石島颯太
(安中小6年)

僕は、戦争を知りませんでした。69年前の8月6日、広島に原子爆弾が落とされ、多くの尊い命が奪われたことが信じられません。爆風によりたくさん建物が崩れ、家や家族を失い、普通の生活がなくなりしました。でも広島は、人々の努力によって復興しました。悲しみや苦しみの中で、生きることへの希望を見つけ、生きた人々に感謝するとともに、当たり前であることが平和なのだと思いました。僕も小さなことから始めます。もの、命を大切に、人間として、思いやりの心、優しい心を持ちたいです。



石島恵子
(根火)

69年目となる8月6日、広島は43年ぶりの雨でした。式典に参加し子ども代表の平和



中島歩夢
(木原小6年)

今回の広島は、木原小のみんなと心を込めて折った千羽鶴を届けたり、平和記念式典に参加したりと、僕にとって初めてのことがばかりの2泊3日でした。

平和記念資料館や被爆体験講話を聞いて、映画やアニメでしか見たことのなかった戦争というものが、実際にあった本当に恐ろしいものだとい



中島のぞみ
(上舟子)

うことを改めて感じました。一瞬にして広島町の町を壊し、たくさん命を奪った原爆というものが、とても許せないと思いました。二度とこのようなことが起きないように、今僕にできることは何か考えていきたいです。

今回、親子で広島派遣事業に参加し、たくさん貴重な体験をさせていただきました。一発の原爆により、一瞬にしてたくさん命が奪われ、今なお、深刻な心身の傷に苦しんでいる方が大勢いるという現実を思い知りました。被爆体験講話をしてくださった梶本さんは「平和の原点は、優しさ」と思ひやりの心」と話し、「今の平和を守るため、二度と戦争を起こさないため」自分の命がある限りたくさんの方に伝えていきたいと語ってくれました。今ある毎日が当たり前のものとは思わず、一日でも長くこの平和が続くことを強く願っています。